

11月11日～12月12日
電池月間



でんち

社団法人 電池工業会

BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5-8
機械振興会館内

電話 (03) 3434-0261 (代)

E-mail: bajapan@hi-ho.ne.jp

ホームページ <http://www.baj.or.jp/>

振替口座 東京8-91022

発行人 木村侃丘

定価1部郵送による年決め2,400円

平成14年8月1日

BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

平成14年度記者懇談会を開き 23紙誌が出席

平成14年7月2日、記者懇談会を開き、環境保全・再資源化で「回収リサイクル活動の強化」、国際交流で「海外工業会との連携の強化」等、平成14年度事業計画について発表した。当工業会からは、田中会長、木村専務理事、河瀬一次、林小形二次、山崎二次部会長他10名が会見に臨み、鹿乗広報委員長の司会で進行した。

田中会長がまず冒頭の挨拶を行った。要旨は次のとおりである。

1. 新役員の紹介、田中会長（日本電池会長）副会長は留任の鈴鹿芳朗（東芝電池社長）と新任の井植敏雅（三洋電機ソフトエナジーカンパニー社長）で工業会事業に取り組む。
2. 平成13年度（4月～3月）の電池業界の出荷金額は、7,106億円、前年比85%と、かつて無い厳しい結果になった。その中で一次電池が1,678億円、前年比89%と大きく落ち込み、マンガン乾電池が前年の86%、またアルカリ乾電池は前年比89%、リチウム一次電池89%と、いずれも前年を下回る実績になった。
3. 二次電池分野では全体で5,238億円、前年比83%と大きく落ち込んだ。内容は鉛電池が92%、ニカド電池、ニッケル水素電池、リチウムイオン電池の合計で前年比80%と大幅に減少、中でも昨年まで好調に推移し、電池業界全体の30%以上のウエイトを占めていたリチウムイオン電池がIT不況の影響をまともに受け前年比83%と、統計を取って以来はじめて前年を割り込んだ。
4. 本年度はこの4～5月の実績は電池全体で、前年比100%になっており、中でもリチウムイオン電池が数量ベースで前年比127%と昨年の最悪の状況から脱したと思われる。しかし電池業界としましては、今後は工業会の会員各社が海外へ生産シフトを加速させ、国内の空洞化は避けられない状況にあり、また海外より安価な各種電池が流入し国内の価格低下は当

分続くと共に、電池に対する更なる小形、軽量、高容量化の追及と、厳しいコストの要求が一段ときつくなることが予想され、以前にもまして業界が切磋琢磨し合いながら、こうしたご要望に応え、業界発展のために尽力したい。

5. 平成14年度の電池工業会の事業計画については、5月17日開催の総会にて承認されたが、その骨子は
(1) 各部会の基本活動として 1) 環境保全に関する活動 2) 再資源化に関する活動 3) 標準化に関する活動 4) PLに関する活動
(2) 国際交流に関する活動
(3) 広報に関する活動
(4) 講習、認定に関する活動
(5) 小形二次電池のリサイクルに関する活動と盛りだくさんで以上の活動とともに、工業会として取り組む重要課題として ①海外工業会との連携 ②リサイクル活動の推進を図る。
6. リサイクルに対する関心は年々高まり、循環型社会システムは高度化すると思われ、一般ユーザーの方々のご理解、ご協力がますます必要であり、マスコミのご支援を得て、広報・PR活動を強化し、実行を挙げていきたい。



続いて、木村専務理事より本年度事業計画を発表

1. 環境保全に関する活動 最も重要な活動として、今年も継続して推進する。

第1には、小形二次電池再資源化推進センターの発足2年目を迎え、内容の充実、社会的認知の向上で更なる3Rの実効性を高める。一年を経過し電池、機器メーカー合わせて150社以上がリサイクル会員として加盟し、双方が同じ目的である3Rの実現に向かって同一歩調をとる事が可能になったのは大きな進歩であり、法律の目指す循環型社会の構築に真正面から取り組んでいる。センターは設立以来センターとしての、運営の自主性を尊重してきたが、これからはセンター運営委員会が活動の素案を作り、実施し、工業会はその活動の実現についての多面的支援を行う。

第2には2004年の自動車リサイクル法に向けて、従来より活動してきた委員会活動を本年1月に、特別プロジェクトチームに再編し、自動車用電池の回収、再資源化の新たな仕組み作りの作業を関連官庁、関連団体との話し合いのもと、スピードアップしているところである。その他産廃審、リサイクルガイドラインへの対応PRTR法(化学物質排出管理促進法)への対応経済産業省、LCAプロジェクトへの対応等多角的に取り組んで行く。

2. 標準化に関する活動 日本で開発、生産された電池が、今や世界中で機器に搭載されている、電池ビジネスがここまで国際化が進んできた状況下、日本の規格(JIS)が国際規格(IEC)にどう反映しているかが、企業戦略にとってキーファクターである。

国内規格の見直し、改定、これをIECの国際会議に積極的に参加し、日本の意見の反映とリーダー的立場の向上を図る。

3. 工業会の国際化への活動 工業会の会員各社の生産、販売のグローバル化は当然以前から実施していたが、

工業会として欧米の工業会とは環境問題をはじめ、多方面で密接に連携を深めてきたが、昨今日本企業の中国への進出、また中国、韓国よりの電池の日本市場への輸出の急増等を考えると、中国、韓国、台湾を中心とした工業会相互の連携を早急に取る必要があり、今年度は中国工業会との責任者会議をはじめ、アジア各国との具体的課題について、意見の交換を進めていく。

4. PLに関する活動 電池を正しく使用して頂く為の啓蒙活動は、電池工業会の重要な活動で、各種電池のクレームの内容分析を行い、暮らしの中の電池N0.4にて正しい電池の使用についての小冊子を、PL委員会と広報委員会の協業で本年度完成し、各種展示会、手作り乾電池教室等で配布し啓蒙活動を行う。

5. 蓄電池設備認証センターの活動 総務省消防庁の指導を得ながら、非常用蓄電池設備の品質の維持と、安全性を確保する目的で、蓄電池設備の認定と、蓄電池設備整備資格者育成の為の事業を従来より行っている、本年も全国20箇所で開催を実施し3,000名弱の受講者を見込んでいる。

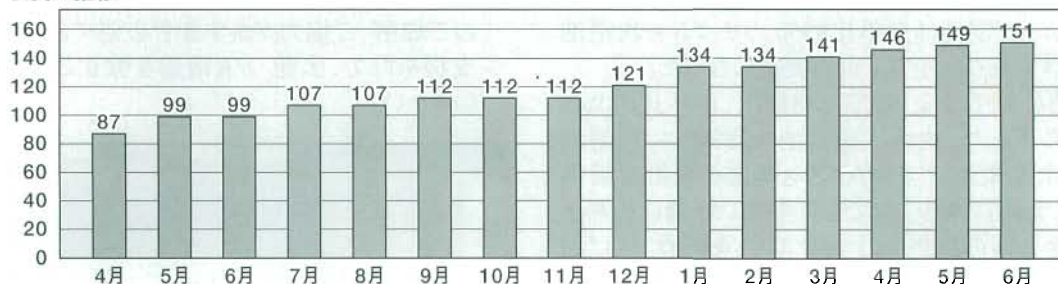
次に小形二次電池再資源化推進センター佐々木副所長より本年度の事業計画を発表

1. 平成13年度 活動状況 平成13年4月施行された「資源の有効な利用の促進に関する法律」に基づき、密閉形蓄電池の内、ニカド電池・ニッケル水素電池・リチウムイオン電池・小形シール鉛蓄電池の4品目については、電池製造販売事業者、電池使用機器製造販売事業者、電池及び使用機器の輸入販売事業者に回収・再資源化が義務付けられました。

当センターは、これらの小形二次電池の回収・再資源化事業を、共同で実施するために設立されたもので、当初87社でスタートし、現在の参加企業は、下記の151社に拡大しています。

◎共同回収・再資源化参加企業

会員の推移



2. 平成13年度における当センターの回収・再資源化事業の実施状況について

平成13年度電池別回収量

	ニカド電池	ニッケル水素	リチウムイオン	小型シール鉛
目 標 量	700トン	100トン	300トン	30トン
回 収 量	628トン	44.5トン	333トン	27トン
目 標 比	90%	45%	111%	90%
再 資 源 化 量	600トン	52.7トン	286トン	28トン
前 年 実 績 比	105%	84%	116%	95%

平成13年度電池別再資源化率

	ニカド電池	ニッケル水素	リチウムイオン	小型シール鉛
目 標 率	60%	55%	30%	50%
処 理 量	625.7トン	41.9トン	320.3トン	* 3,678トン
再 資 源 化 量	444.4トン	28.7トン	125.2トン	* 1,839トン
再 資 源 化 率	71%	68.5%	39%	* 50%

* 小形シール鉛電池の再資源化数値は、その他鉛電池を含めた数値(電池工業会)を引用

3.平成13年度回収・再資源化活動概要 回収・再資源化事業を円滑に実施する為、電池メーカーが「小形二次電池再資源化推進センター」を設立、これに電池使用機器メーカーが参加することにより、小形二次電池の回収・再資源化の共同実施体制を構築。また、使用済み電池の回収ルートを整備するため、消費者等からの使用済み電池の引取り協力を行う販売店等を電池工業会が従来より組織してきた「協力店くらぶ」として継続強化するほか、事業者系の回収拠点の整備に努めた。更に、回収の実効性を向上させる為、消費者、自治体向けの広報等を実施した。

①再資源化推進センターの運営体制確立:規約に従い以下の運営を行なった。

総会開催:平成13年6月21日

運営委員会:4回開催

②収集運搬業務3社・再資源化処理業務7社との業務委託契約締結。

③回収拠点の構築:回収システム強化。

協力店くらぶ会員店:30,700店 (家庭からの使用済み充電式電池を回収)

会員回収拠点:約1,200拠点新設(会員メーカーの回収した使用済み充電式電池を回収)

事業系回収拠点:約3,000拠点新設(事業系ユーザーの使用済み充電式電池を回収)

自治体拠点:約20拠点新設(自治体に回収された使用済み充電式電池を回収)

学校回収拠点:約116拠点新設(学校で回収された使用済み充電式電池を回収)

④ニカド感謝金制度を廃止、登録回収拠点から対象全電池の無償回収方式に移行。

⑤広報・啓発・自治体連携活動

・モデル自治体との取り組み:31市町村に協力依頼、20市町村で回収拠点登録

・市民団体との連携:市民団体、各自治体とタイアップし9ヶ所のイベントに参加。

・リサイクル協力学校への取り組み:学校拠点を募集し、116校の参加。

・その他、東京都発行小冊子への情報提供、環境省TV番組への情報提供、自治体広報誌への電池リサイクル記事掲載などを実施。

・ホームページ: <http://www.jbrc.com/> を開設し、センターの情報を発信。

・消費者へのインセンティブ付与

・協力店くらぶ回収拠点での「リサイクルキャンペーン」実施(6月1日～11月11日)

「北欧オーロラの旅」などを賞品に実施し、82トン(前年比128%)の回収実績。

4.平成14年度 事業計画概要 平成14年度は、共同の回収システム 及び再資源化システムに更なる改善を加え、小形二次電池のリサイクルシステムの定着を目指す。

(1)新規会員の拡大

未加入の指定再資源化事業者に対し、センターの共同回収システムへの加入を促がし、共同システム参加者を増やし、システム運営費用の負担者増加に勤める。

(2)回収拠点の構築に関する活動

小形二次電池回収拠点システムの効率化を更に検討し、業種、業態に応じ、一般系及び事業系排出者からの回収拠点の整備充実を行う。

1)自治体からの引取拡大のため、自治体向けの広報・情報提供を行い、自治体の協力・連携を深め、一般家庭系から排出する使用済み小形二次電池の回収量増加をはかる。

2)従来、主として産業廃棄物処理されていた大口ユーザー(JR、警察、自衛隊、公共機関、大手メーカー工場など)の回収拠点登録化を要請し、回収量の拡大をはかる。

3)センター会員が登録申請した「回収拠点」の更なる整備を行い、効率的な共同回収を目指す。

(3)広報・啓発・情報提供

①センター会員と協力し、業種・業態に応じた広報活動を行う。

②協力店くらぶでの回収キャンペーン取り組みを行い、消費者へのインセンティブ付与を行う。

③展示会、イベント等への参加を行い、小形二次電池の共同回収システムの広報・啓発・情報提供に努める。

④センターのホームページを更に充実し、ホームページ活用を拡大する。

.....

次に鹿乗広報委員長より本年度の計画を発表

.....

◎広報に関する活動としては、電池の正しい使い方を中心に広く消費者に啓蒙活動を行う。

行事としては以下の計画を実行する。

①充電式電池くるくるリサイクルキャンペーン(6/1～11/11)

②手作り乾電池教室(7/20～8/31)

③電池月間(11/11～12/12)

④でんちフェスタ(11/9)

⑤プロ野球最優秀バッテリー賞表彰式(12/5)

.....

以上が工業会からの発表内容であるが、その後参加記者との間で活発な質疑応答が行われ、大変有意義な記者懇談会を持つことが出来た。

2002京都国際防災展に出展

7月25日から7月26日の2日間、国立京都国際会館で開催されたIFCAA '02京都国際防災展に初出展、電池工業会の紹介と非常灯・誘導灯の点検を中心とした一次、二次各電池の正しい使い方とリサイクル等の啓蒙活動を行った。

来訪者は、国内の消防関係者と防災機器メーカーが中心であったが、電池寿命、メモリー効果、電池残量表示等専門的な質問も多く、電池に対する関心の深さを改めて実感することになった。

なお、今後の展示会への出展予定は、下記のとおりです。



- 2002NEW環境展「インテックス大阪」…………… 9月4日(水)～7日(土)
- 交通安全フェア「後樂園プリズムホール」…………… 9月21日(土)～22日(日)
- 自動車点検フェスティバル「池袋西口公園広場」…………… 9月28日(土)～29日(日)
- CEATEC JAPAN「幕張メッセ」…………… 10月1日(火)～5日(土)
- 東京モーターショー「幕張メッセ」…………… 10月29日(火)～11月3日(日)
- ウエステック2002「幕張メッセ」…………… 11月26日(火)～29日(金)

蓄電池設備整備資格者

講習修了考査合格者

北海道会場分

電池工業会は、7月2・3日北海道で開催した、蓄電池設備整備資格者講習の修了考査に合格した者の氏名を発表した。

合格者(合格率)は、53名(75.7%)であり。合格通知は直接本人に通知される。

<北海道>

山口淳二、岩谷 仁、大山政司、金野守人、多田 栄、吉田 敏、橋本幹雄、森永 徹、玉岡義高、飛田政晴、寺西弘騎、瓜田孝勝、澤田敏則、太田和寛、道貝修正、伊藤 寿、高屋敷知巳、横田恒次、竹内 正、江良勇樹、高橋祐治、松村敏則、米田英之、山下 勝、前田靖弘、伊藤一広、木下孝一、児玉直樹、渡邊勝美、和田昌之、増成謙吉、斎藤力雄、高木 将、藤沼貞治、井澤潤二、渡邊正俊、中鉢雅夫、小西峰樹、瀬戸英司、有倉雄大、宮本純一、久保広光、渡辺昌彦、奥 隆司、坂本 明、白川秋男、藤下明人、三木航一、原子 明、佐々木雄二、富田健一、山本光雄、芦澤 聡。

平成14年 7月度の電池工業会活動概要

部会	7月度開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項
特別会議その他	2日(火)	記者懇談会	*新会長による記者懇談会を開催
	9日(火)	交通安全フェア説明会	*内閣府主催で本年度のフェア内容の説明があった
	12日(金)	広報印刷WG合同見積	*選定5社に見積を依頼
	15日(月)	電気・電子機器環境分野の国際規格調査委員会	*平成14年度の実施計画、環境規格ガイドライン案の検討
	18日(木)	産構審環境部会第3回廃棄物・リサイクル小委員会	*資源有効利用促進法の施行状況・リサイクルガイドラインの進捗状況
	20日～	手作り乾電池教室の開始	*全国13の科学館を対象に、イベントを開始した。
	24～25日	IFCAA' 02京都国際防災展	*防災関係に対し電池の中味、リサイクルのやり方等の啓蒙を行った。
	29日(月)	広報委員会	*各WGの活動報告
二次電池部会	1日(月)	産業用電池小委員会	*産業用電池新リサイクルスキーム審議
	3日(水)	二次電池リサイクル(委) 拡大事務局・分科会合同	*産業用電池新リサイクルスキーム審議・申請準備
	4～5日	(自)リサイクル特別プロジェクト	*自動車電池(二輪含む)の新リサイクルスキーム検討
	5日(金)	用語分科会	*SBA:規格票作成マニュアル制定案
	8日(月)	二次資材委員会	*自動車・産業用電池新リサイクルスキーム審議
	8日(月)	自動車鉛分科会	*IEC会議での宿題事項の回答内容決定。SBA:安全・取扱い指針改正案。
	9日(火)	小形鉛分科会	*SBA:安全取扱い指針改正案。日本提案のIEC規格の内容(英文)確認
	10日(水)	二次電池リサイクル(委) 拡大事務局・分科会合同	*産業用電池新リサイクルスキーム審議・申請準備
	11～12日	(自)リサイクル特別プロジェクト	*自動車電池(二輪含む)の新リサイクルスキーム検討
	16日(火)	二次電池リサイクル(委) 拡大事務局・分科会合同	*産業用電池新リサイクルスキーム審議・申請準備
	17日(水)	電気車用電池統計分科会	*4～6月の実績確認と検討
	17日(水)	据置鉛分科会	*SBA:制御弁式鉛蓄電池の技術指針改正案。日本電機工業会との合同会議開催
	17～18日	(自)リサイクル特別プロジェクト	*自動車電池(二輪含む)の新リサイクルスキーム検討
	18日(木)	据置アルカリ分科会	*JIS:シール形ニッケル・カドミウムアルカリ蓄電池制定案の最終確認
	19日(金)	(自)技術サービス小委員会	*新規作成のバス・タクシー用電池の安全取扱い啓蒙パンフレットの内容
	22～23日	(自)リサイクル特別プロジェクト	*自動車電池(二輪含む)の新リサイクルスキーム検討
	24日(水)	二次電池リサイクル(委) 拡大事務局・分科会合同	*産業用電池新リサイクルスキーム審議・申請準備
	24日(水)	産業用電池統計分科会	*4～6月の実績確認と検討
	24日(水)	HEV用電池分科会	*日本電動車両協会より依頼のハイブリッド自動車用電池の規格案
	25日(木)	自動車用電池委員会	*自動車電池(二輪含む)の新リサイクルスキーム審議
	29日(月)	二次電池リサイクル(委) 拡大事務局・分科会合同	*産業用電池新リサイクルスキーム審議・申請準備
	30日(火)	二次資材委員会	*自動車・産業用電池新リサイクルスキーム審議
	30日(火)	電気車用電池小委員会	*統計・リサイクル分科会報告。電気車電池リサイクルについて
	30～31日	(自)リサイクル特別プロジェクト	*自動車電池(二輪含む)の新リサイクルスキーム検討
	31日(水)	PL委員会	*UPS用電池の焼損事故集計、国土交通省破裂事故報告議事等
小形二次電池部会	1日(月)	安全性ガイドライン策定WG	*IEEE新規提案、PRBA対応、USA弁護士選定状況等の確認
	12日(金)	アルカリ分科会	*回収電池調査結果のまとめ、回収率算定方法の検討など
	17日(水)	リチウム2次分科会	*IEC規格/電池用語の審議、リユース対応WG技術見解の作成
	24日(水)	再資源化委員会	*産構審リサイクルガイドラインの対応:回収率算定方法の検討など
	25日(木)	業務委員会	*小形二次電池6月度出荷実績、回収率算定用統計の検討など
一次電池部会	5日(金)	業務委員会	*旧統計小委員会関連の統計諸資料の纏め方等の確定
	10日(水)	一次電池部会	*台風のため中止し、資料確認いただいた
	15日(月)	PL委員会	*チェーンショートへの対応方策、事故事例集の纏め方等の確定
	18日(木)	JIS小委員会	*JIS C 8501(マンガン乾電池)改正審議、JIS規格体系の検討
	18日(木)	IEC小委員会	*PR系電池試験条件、マンガン乾電池Sグレード、デジカメ応用試験の検討

業界動向

***ソニー&ソーテック** 記憶媒体やソフトの共有化等を行いパソコン事業で提携、個人向けパソコン市場で主導権獲得を目指す。(6月2日付 日経)

***日立H&L** コードレスクリーナー開発に重点をおき、パワー向上や使い勝手(充電時間と持続時間)などを改良、他社にない技術の確立を目指す。(6月3日付 電波)

***カーナース・インスタット(米)** 世界の携帯端末市場は、2006年には1000億ドルを超える市場になる。(6月3日付 電波)

***電子辞書** パソコン、PDAの画面上で小説等を読む電子辞書の市場が拡大中、三年後には100億円以上の市場に成長しそう。(6月3日付 日経)

***ソニー** リチウムポリマー電池の生産を、国内に加えメキシコ、中国でも拡大。2002年度は、3割増の月産360万個へ。(6月4日付 日経産業)

***NEC&松下通信工業** 第三世代の携帯端末分野でのグローバルな事業拡大に向け、上海に新会社を設立した。稼働は6月末。(6月4日付 電波、日経&日刊工業)

***スカイウェイブ(東京)** PDAで音声通話ができる技術を開発した。今秋を目処にPDAメーカーにソフトの販売を予定。(6月4日付 日経産業)

***三菱電機** 巨大な太陽電池パネルを備えた衛星から受け取るマイクロ波を電気エネルギーに転換し、携帯電話等を駆動させる「バッテリーレス社会」のビジネス構想を明らかにした。この中では今後十年で二兆円以上の市場を創出できると試算している。(6月4日付 日経産業)

***大和化成研究所&産業技術総合研究所関西センター** 錫合金メッキによるリチウム電池負極を開発した。02年中にサンプル出荷を予定しているが、炭素負極に比べ高容量、低コストと内容。(6月5日付 日刊工業)

***日本電池** 自動車用バッテリーの中国生産を拡大、9月から年間30~40万個を日本市場に供給する旨を発表。(6月5日付 日刊工業&日経産業)

***新華社電** 廃棄テレビ、パソコン等の電気製品の海外からの流入を抑え、環境汚染の防止に努める記事を記載。(6月6日付 電波)

***日本電池** 蓄電池併設形太陽光発電システムを商品化し、6月15日から発売を開始。(6月7日付 電波)

***日立H&L** プロ野球阪神タイガースのロゴマークをあしらったアルカリ乾電池を21日から発売する。(6月7日付 日経、電波&日経産業)

***日清紡** 自動車向け需要を睨み、固体高分子型燃料電池(PEFC)用カーボンセパレーターの生産能力を段階的に年数千枚にまで引き上げへ。(6月X日付 日経産業)

***ソニーマーケティング** デジタル機器の市場拡大へ対応、ニッケル水素電池を急速充電器とセットで拡販へ。(6月X日付 電波)

***日清紡** ハイブリット車や電気自動車普及の鍵を握る次世代蓄電デバイスを開発した。独自の電解質を採用する事で瞬時の大電流充放電が可能で2003年に商品化予定。(6月11日付 日経産業)

***ソニー** 中国などアジアでの知的財産戦略を加速、海外での特許出願件数を99年の約3600件から、02年は約5200件に引き上げへ。(6月11日付 日刊工業)

***東京電力** 蓄電能力に優れたNAS電池システムを国内で初めて発売、第一弾として月内に富士通の研究所に納入へ。(6月12日付 日経)

***コバルト需要** コバルトの世界需要は、減少に歯止めはかかったものの回復の足取りは重い。当面は国際価格の大幅な上昇はなさそう。(6月12日付 日経産業)

***環境省&経済産業省** 2001年度に実施したPRTRパイロット事業についての報告書を纏めた。その中のアンケートからは「知らない」が尚16%あり、周知徹底がまだ必要であるとしている。(6月13日付 化学工業日報&日経産業)

***東邦亜鉛** 10月を目処に、3精錬所を社内分社、コスト分担の明確化を図る。(6月13日付 日経産業)

***三菱重工業** 都市ガス利用の家庭用燃料電池の実用化に目処がついた事、今年末には都市ガス各社にサンプルを出す事等を発表。(6月13日付化学工業日報&日経)

***伊藤忠商事** ハイブリット自動車等に使用されるリチウムイオン電池の放電性能を2.5倍に引き上げる技術を開発した。自動車会社などへの技術供与などを通じ実用化をはかる。(6月14日付 日経)

***バブコック日立** 都市ガスなどから水素を取り出す燃料電池用改質器で起動時間を従来の半分以下に縮めた新型器を開発、家庭用に2005年には発売する。(6月14日付 日経産業)

***IDC(米、ハイテク調査会社)** 今年のパソコン出荷台数の前年比増加率をこれまでの3.0%から4.7%に引きあげた。(6月15日付 日経)

***松下電池工業** いざと言う時に、大音量を発する防犯ブザー二機種を発売した。使用電池は、CR2025。(6月15日付 電波)

新任の石田社長、モバイル機器のニーズは益々増える事、ニーズに合った二次電池の開発を加速させる事等を語る。(6月17日付 電波)

***太陽光発電協会** 日本の太陽光発電の市場規模は、2020年頃には1兆円以上になると予想。(6月17日付 日刊工業)

***ダイムラークライスラー** 燃料電池自動車の北米大陸横断に成功した。公道実走試験で5000km以上の距離を走ったのは初めてとなる。(6月17日付 日経産業)

***亜鉛精錬各社** 同和鉛業は中国への技術協力で、東邦亜鉛は社内分社化による事業の効率化を図る等、亜鉛精錬各社は生き残りをかけ構造改革へ。(6月17日付 日刊工業)

***富士経済** 2002年度の国内電池総生産数が、67億8千万個で、前年度比1.4%の減少が予想され、国産電池は当面、需要の踊り場にある事等を予想。(6月17日付 日経産業)

***東京農工大** 充電時間が短く、耐久性に優れた新型二次電池を開発した。企業との共同研究で2~3年後の実用化を目指す。(6月19日付 日経産業)

***東芝** 高安定なニッケル系正極を用いる事で超薄型・高容量のリチウムイオン電池を開発した。2~3年後には実用化へ。(6月20日付 日刊工業)

***テレビ付ケータイ** デジタルテレビ放送が見られる携帯端末の開発が進んでいる。カギはバッテリーの小型、高性能化。(6月25日付 電波)

***日産ディーゼル工業** 24日、電気モーターとディーゼルエンジンを併用したハイブリットトラックを発売した。寿命10年の蓄電装置「キャパシター」を自動車に初めて実用化したのがポイント。(6月25日付 日経)

***セイコーインスツルメンツ(SII)** 検査時間の大幅短縮ができる、リチウムイオン電池用の新保護回路を開発し26日に発売した。(6月27日付 日経産業&電波)

***テラリウム(川崎市)** 燃料電池を動力源とする模型自動車を7月から発売する。動作は、車載容器に注いだ水を太陽電池で発電した電力で電気分解し水素・酸素を作り駆動させる方法を取っている。(6月27日付 日経産業)

***日本半導体製造装置協会(SEAJ)** 5月の日本製装置の受注高が、前年同月比49%増、前月比32%増の1121億円になった。(6月29日付 電波)

***神鋼バンテック** 使用済み蛍光灯の再資源化設備を増強、年間処理能力を300万本から800万本に引上げる。(6月28日付 日経産業)

小形二次電池再資源化推進センター便り

小形二次電池の回収状況(6月末現在)

	ニカド電池	ニッケル水素	リチウムイオン	小形シール鉛
本年度回収目標量	820t	125t	360t	32t
6月度単月実績	51.8t	3.1t	10.9t	0.7t
4~6月度累計実績	161.8t	15.0t	46.6t	3.7t
前年同期比	94%	79%	63%	35%
目標量進捗率	20%	12%	13%	12%

ホームページ: <http://www.jbrc.com>

●●●●● 新製品ニュース ●●●●●

がんばれ!阪神タイガース 阪神タイガースデザインのアルカリ乾電池を発売

日立ホーム&ライフソリューション株式会社(社長 瀬端久仁雄)は、阪神タイガースのロゴマークをデザインしたアルカリ乾電池単3形20本入りを6月21日より発売します。

今シーズン開幕以来、阪神タイガースは快進撃を続けています。本年4月1日に日立グループの家電専業会社として新しくスタートした当社としても、この新生阪神タイガースの活躍を応援し、「がんばれ!阪神タイガース」デザインの乾電池を発売します。

また、より多くの方にこの製品を知っていただき、阪神タイガースグッズとしてご愛用いただくために、当社の取り扱い製品の中でも、個数では最大クラスの乾電池で商品化します。

なお、本製品の購入にあたっては、お近くの電気店に注文いただくか、当社が運営するホームページ「ホラソ.com」(<http://www.horaso.com>)からも発注できます。

今後、当社はこういった時流にあわせた迅速な製品を開発・発売し、スピードを重視した事業を展開していきます。



「がんばれ!阪神タイガース」アルカリ乾電池LR6 (HT) 20K

■型式・希望小売価格

型 式	希望小売価格	発売時期	製品仕様	生産台数
LR6 (HT) 20K	オープン	6月21日	アルカリ乾電池 単3形20本入り	限定1万パック

今回発売する乾電池は、昨今の大量使用機器増に伴い、今や需要の7割を占めるアルカリタイプで、中でもモバイル機器・ゲーム機器などで使用頻度の高い単3形の20本パックです。

これらの機器やアウトドアでのAVプレーヤー等は、大電流で消耗頻度が早いため、アルカリ単3形の多本パック品の需要は増加傾向にあります。

デザイン面では、1本1本に阪神タイガースのロゴマークをあしらうとともに、20本収納の専用トレイケースにもデザインを施し、常備箱の役割とともに阪神タイガースグッズとして身近における商品となっています。

世界初の15分で充電できる革新的な 高容量ニッケル水素電池の共同開発のご案内

YUASA(社長 大坪愛雄)は、米国 Rayovac社との共同により、世界初の、15分で充電できる革新的な高容量ニッケル水素電池を開発いたしましたので、ご案内申し上げます。

これまでのニッケル水素電池は充電に約1時間を要しましたが、今回開発した電池はRayovac社の革新的なI-C3 (In-Cell Chareng Control) 技術と高容量化を可能とする新正極活物質と高温性能を向上させる画期的な添加剤を適用するなどの当社独自の技術とを融合することによって、所要時間15分という超急速充電と高容量化を実現しました。このすぐれた性能を持つ電池は、当社と台湾のデルタ電子社の共同出資会社でありますユアサデルタテクノロジー社の中国天津工場生産し、Rayovac社が全世界に向けて販売いたします。発売時期および機種は、2003年の後半に、AA2000(単3)タイプ、AAA850(単4)タイプの2機種の発売を予定しております。

充電時間が大幅に短縮できたことにより、使用時の利便性が向上し、従来のニッケル水素電池の代替だけでなく、使い捨て乾電池などの一次電池の代替にも最適であり、近年の省資源化の流れに沿った電池と考えており、用途についても、ハイテク電子機器(デジタルスチルカメラ、MP3プレーヤー、携帯電話等)用電源や電動工具、玩具、電自動車、PDA等の電源としてでなく、一次電池が使用されてきた分野への拡大を期待しております。

5月度電池および器具販売実績（機械統計）

（平成14年5月）

単位：数量＝千個、金額＝百万円（本年よりマンガン乾電池の単二がその他に含まれました）

	単 月				1月～当月累計			
	数 量	金 額	数量 前年比	金額 前年比	数 量	金 額	数量 前年比	金額 前年比
電池・器具総合計	486,211	52,295	105%	100%	2,386,592	271,032	96%	93%
全電池合計	485,117	50,610	104%	100%	2,382,385	263,555	96%	93%
一次電池計	359,862	12,525	106%	108%	1,727,437	61,788	95%	97%
マンガン乾電池計	83,468	1,653	96%	98%	431,582	8,663	91%	90%
単一	8,883	476	112%	111%	47,091	2,432	94%	93%
単三	41,240	620	83%	82%	231,686	3,453	90%	86%
その他	33,345	557	116%	111%	152,805	2,778	91%	92%
アルカリ乾電池計	95,305	5,103	101%	99%	484,426	26,267	92%	90%
単三	61,548	2,863	102%	99%	308,290	14,431	90%	86%
単四	19,495	944	85%	76%	101,168	5,054	87%	82%
その他	14,262	1,296	129%	129%	74,968	6,782	109%	112%
酸化銀電池	85,503	938	107%	104%	379,816	4,297	97%	93%
リチウム電池	89,930	4,574	119%	124%	401,930	21,114	99%	108%
その他の乾電池	5,656	257	155%	133%	29,683	1,447	152%	161%
二次電池計	125,255	38,085	101%	98%	654,948	201,767	97%	91%
鉛電池計	2,855	8,644	96%	97%	16,273	55,118	90%	90%
自動車用	1,536	4,850	109%	111%	8,894	28,904	97%	94%
二輪用	343	695	83%	90%	1,928	3,792	85%	94%
小形シール	815	841	88%	95%	4,320	4,467	80%	82%
その他	161	2,258	73%	79%	1,131	17,955	88%	87%
アルカリ電池計	79,244	9,614	91%	92%	436,124	51,968	91%	89%
完全密閉式	42,592	4,916	120%	116%	198,786	22,424	97%	96%
ニッケル水素	36,629	4,519	71%	75%	237,216	27,550	87%	83%
その他のアルカリ電池	23	179	256%	102%	122	1,994	154%	113%
リチウムイオン電池	43,156	19,827	124%	102%	202,551	94,681	115%	93%
器具計	1,094	1,685	139%	106%	4,207	7,477	100%	98%
携帯電灯	576	543	157%	140%	2,203	2,271	101%	99%
電池器具	518	1,142	124%	95%	2,004	5,206	99%	98%

5月度電池輸出入実績（財務省貿易統計）

（平成14年5月）

単位：数量＝千個、金額＝百万円（少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

	単 月				1月～当月累計			
	数 量	金 額	数量 前年比	金額 前年比	数 量	金 額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計（輸 出）	261,087	26,818	107%	99%	1,304,909	137,421	98%	94%
一次電池計	151,022	2,962	103%	100%	735,126	15,667	91%	93%
マンガン	48,631	397	106%	105%	241,081	1,954	97%	100%
アルカリ	13,531	232	61%	73%	69,833	1,297	61%	67%
酸化銀	32,338	363	100%	93%	162,117	2,008	92%	91%
リチウム	54,213	1,919	121%	104%	250,099	10,050	97%	97%
空気亜鉛	2,094	39	126%	153%	10,479	204	122%	130%
その他の一次	215	12	186%	93%	1,516	154	28%	66%
二次電池計	110,066	23,856	113%	99%	569,783	121,753	109%	94%
鉛蓄電池	402	688	73%	82%	2,071	3,616	68%	76%
ニカド	36,796	3,348	129%	122%	166,810	15,772	107%	107%
ニッケル鉄	0	0	0%	0%	51	13	23%	55%
ニッケル水素	27,196	2,961	71%	62%	177,929	17,442	88%	69%
リチウムイオン	36,302	15,035	154%	107%	167,962	74,547	131%	100%
その他の二次	9,370	1,824	141%	102%	54,961	10,363	171%	105%
全電池合計（輸 入）	46,791	3,561	124%	102%	210,658	18,828	109%	101%
一次電池計	43,816	1,053	124%	142%	195,525	6,350	115%	117%
マンガン	7,829	107	75%	72%	45,636	667	94%	94%
アルカリ	30,945	605	137%	137%	131,263	2,847	118%	126%
酸化銀	350	7	255%	235%	2,011	42	142%	115%
リチウム	3,226	164	365%	177%	7,758	713	157%	126%
空気亜鉛	517	17	1062%	134%	1,723	73	116%	113%
その他の一次	948	153	80%	350%	7,134	2,008	246%	113%
二次電池計	2,975	2,507	116%	91%	15,133	12,478	65%	94%
鉛蓄電池	496	1,308	108%	110%	2,353	6,476	99%	104%
ニカド	1,177	408	106%	67%	6,687	2,065	120%	99%
ニッケル鉄	0	1	780%	35%	3	7	844%	69%
ニッケル水素	-	-	-	-	-	-	-	-
リチウムイオン	-	-	-	-	-	-	-	-
その他の二次	1,302	791	130%	84%	6,089	3,930	40%	80%